

飯田市赤十字奉仕団のこれからの在り方に関する提案

飯田市議会 総務委員会

飯田市赤十字奉仕団（以下、「奉仕団」という。）の今後の在り方を考える上で、以下の内容について提案します。

1 団員の勧誘・選出に関して、まずは地域の評価と理解を高めていくことが肝要で、そのためにはこれまでの奉仕活動の在り方を見つめ直し、新たな視点で地域に期待される事業を構築されることに期待します。

議会報告・意見交換会で聞かれた「地区によっては団員選出が難しい」「奉仕活動に疑問を持つ人が増えている」「地区輪番制にもほころびが見られる」「勧誘に行っても断られる」「活動に負担感を覚える」については、奉仕団の基本理念である自発的な奉仕活動が地域からの感謝と評価に繋がっていないことに起因しているように見受けられます。

このことは個々人の奉仕活動の動機にも繋がることで、どのようにして地域にアピールし、地域から感謝されるようにしていくかを考慮することは重要なことではないでしょうか。

以上のことから、奉仕団の活動自体を変化せざるを得ない時期に来ており、そのために事業内容を以下の2点に整理し検討してはどうでしょうか。

(1) 奉仕活動（主に地域福祉の役割）

参加については事業の目的を理解し自発的な活動になるようにしていくことに留意。

(2) 地域に期待される役割（自主防災に関係する役割）

奉仕団がこれまで積み上げてきた災害時の活動に関し、地域との関係性を明確にした上で、地域の安全・安心に寄与する団体であることをより明確にする。

まずこの2点の区分と整理に取り組んで頂くことで、地域の評価に変化が生まれ、団員も活動に対する意味を理解し、納得感による自発的な行動に繋がるものと考えます。

2 まちづくり委員会との連携に関して、現状は不十分ではないかと考えます。そこで、まちづくり委員会との関係性については、危機管理部及び市民協働環境部の協力を得て、新たな関係性を構築されることに期待します。

まちづくり委員会との連携については、出来ている地区とそうでない地区など関係性に曖昧な点があることがわかりました。地区分団は地域に活動の拠点を置くわけですが、地域との関係性が曖昧であることは、所属する団員も活動の目的と意味が自覚できていないことに繋がります。

自主防災会や消防団との連携を既に実施している地区もありましたが、実態はまちづくり委員会や自主防災組織の協力団体としての位置づけで、依頼があって動くというような一方通行であり、双方向の関係性になっていません。

地域の安全・安心に対し、どのように協力して取り組むのかを計画作成の段階から参画し、奉仕団の能力が活かされるよう、体制を整備していくことが求められると考えます。

また、地域の福祉課題はまちづくり委員会との協働で取り組むことにより奉仕団活動への理解が深まると考えます。そのために担ってほしいこと、出来ることは何かなど、まちづくり委員会との協働関係について話し合いを持つことから始めていくべきと考えます。

3 奉仕団地区分団への理解を広げていくために、地区との共同事業に取り組んでいくことに期待します。地区自治振興センター所長は日本赤十字社長野県支部飯田地区区分長とされており、区分長とともにこの課題に取り組んでいかれることに期待します。

分団の活動について地区との共同事業にしていく工夫が必要と考えます。まちづくり委員会とタイアップした事業を組むなど、活動を通じて理解者や支援者を増やしていくことが大切と考えます。

4 奉仕団本団への要望や提案事項に関して、団員からの率直な声を総括すると、社会情勢に鑑みた訓練方法や内容に見直していくことが求められていると考えます。これまでの経験や伝統から、受け入れ難い点もあると推察しますが、奉仕団の新たなスタートとして、取り組んでいかれることに期待します。

奉仕団本団に対する要望で一番大きな点は訓練方法の見直しであると認識しました。救急救護訓練や炊き出し訓練は、人命や食品衛生に係わる訓練ですから、ボランティア団体であっても厳しい訓練が必要ということは理解できます。しかし、その厳しさゆえに受け止める団員の心情を推し量ることも、指導する側として必要なことと考えます。

救急救護訓練は日本赤十字社など上部団体が行う大会向けの訓練と、例えば地域の自主防災会で行う訓練に用いる内容として、家庭でも出来るような講習会に見直していくことを勧めます。保健師や消防の救急救命士・災害支援ナースなどからのアドバイスを得るなどしてはいかがでしょうか。

大規模災害が発生した場合は活動が長期間になり、奉仕団員だけでは対応が困難になることが予想されます。訓練の中でもこうしたケースを想定し、災害ボランティアや地域住民の参加を視野に、奉仕団の役割を検討していくべきではないでしょうか。

以上、奉仕団として日本赤十字社が求める活動と地域が求めることを整理し、今後どのような活動に主眼を置いていくのか検討が必要と考えます。

地域の連帯の中で、代々繋いできている団員の思いに応えていくためにも、地域

への奉仕活動をどのように展開していくか、このことを考えていく中で今後の展望が開けてくると考えます。

また、奉仕団の定員と任期について現在は分団に一任されているようですが、奉仕団として一定の考え方を持つことも必要なことと考えます。

5 検討の経過

奉仕団について現状と課題について振り返ってみると、平成 29 年度の議会報告・意見交換会の議事録に、団員確保・負担感・組織の在り方などが課題として上げられ、令和 5 年度の議会報告・意見交換会でも同様な課題が指摘されています。

そこで、これを地域課題として捉え令和 6 年度の議会報告・意見交換会では、参加者から意見を聴くために円卓会議方式を用いて、更に課題を絞り込むための話し合いを行うこととしました。

議会報告・意見交換会の 8 会場では、話題提供者からご自身の体験談をお聴きし、その上で参加者から率直なご意見や感想などが交わされ、今後の在り方について多くの提言のための糸口をいただき、委員会として整理することが出来ました。

今回の提案をするにあたり留意したことは、奉仕団は、日本赤十字社の活動を支援するために組織されたボランティア団体であり、日本赤十字社の指揮命令系統のもとで活動していることから、飯田市議会からどのようにして提案するかでした。

検討した結果、奉仕団は、災害発生時の救護活動や福祉事業などで、地方自治体や国とも密接な協力関係にあり、市民の安全と安心を担う住民自治にとって重要な役割を果たす団体であることから、飯田市議会としてお願いをしていくことは妥当であるとの判断をいたしました。

なお、自主性を尊重する観点から、提言という形ではなく、提案として示させていただきます。

6 寄せられた意見から

多くの意見にみられた点は、地域に対する使命感や奉仕（ボランティア）活動を理解するものの、一方でやらされ感や負担感から奉仕団の活動自体に少なからず疑問を持っていることでした。

奉仕団の地域社会に貢献するという理念は尊重するところですが、構成する団員が等しくその理念に共感しているかという点、一概ではないことを認めました。

課題として、選出方法、目的意識、地域との連帯感等、お聴きする声はさまざまで、奉仕の一言では済まされないことも伺えました。

ただ、発言された方々から一様に感じられた印象は、奉仕団の存在意義は地域の安全・安心にとって、欠かせない役割を果たすとの使命感でした。

そこでいただいたご意見から、奉仕団に期待される役割について、及び地域との協働の在り方を探ることが、安全・安心の住民自治への大きな支えに繋がることを確信し、総務委員会としての共通認識としました。

7 提案内容の検討にあたって

議会報告・意見交換会の8会場で交わされたご意見を下に、傾向を分類すると以下のようにになりました。

(寄せられたご意見 125 件)

(1)団員の勧誘・選出について	23/125
(2)まちづくり委員会との連携に関して	20/125
(3)分団への理解を広げていくために	18/125
(4)本団への要望や提案	33/125
(5)複数の項目に関連すること	31/125

8 資料

資料1 令和6年度 議会報告・意見交換会に寄せられた意見の分類表

令和6年度 議会報告・意見交換会に寄せられた意見の分類表

1 団員の勧誘・選出について 23/125

番号	ブロック	関連する発言内容
1	遠山	・南信濃分団は50人ほどで、地区ごとに選出をしているが、各地区の選出方法はまちまちである。
2	遠山	・女性の絶対数も減少してきており、団員の選出に苦労している地区も。
3	遠山	・赤十字奉仕団も消防団と同様に、企業に対し協力ポイントを付与することを考えてはどうか。
4	遠山	・上村、南信濃分団共に50名ほど、活動には半数ほどが参加。70歳代が多く、最高齢は85歳、86歳。団員募集は上村分団は自主加入。南信濃分団は地区判断で輪番制、輪番制だと長くはやってもらえない。
5	遠山	・団員加入に関し、地区であった火災時の活動を見た人が自ら自主加入してくれた。
6	遠山	・団員不足は否めない。男性団員も少ないことから消防退団後、日赤加入してもらいたい。
7	県	・解決策は一朝一夕には出てこないが、関りのない人たちが消防団や赤十字奉仕団のことをどのように思っているのか聞きたい。(そういう人たちは答えてくれないが)
8	県	・最近、特に若い人たちは「メリット」「デメリット」ということを盛んに口にするが、消防団や赤十字奉仕団の存在意義を自分で見つけることが大切ではないか。
9	県	・男性団員が12名いるものの、新しい団員が入らない ・長くやらないといけないうのが嫌だ ・いつまでやればいいのか
10	西部	・まちづくり委員会がまわり番制度と人数割を決めて2年任期とし、団長は男性とすることとしたが無理やりの感が有る
11	北部	・赤十字奉仕団も勧誘に行くと、母親が「娘は無理」と言われ断られてしまう。
12	北部	・入団を希望制にしていると高齢化になりやすく、輪番あるいはまちづくりで選出していくと活動への参加が停滞しやすい。
13	北部	・団員の高齢化や減少が深刻で、選出も姑から嫁にとの関係で出している、(上郷は一本釣りで座光寺はまちづくり選出)
14	南部	・三穂はまちづくりで決められているが、川路も竜丘も団員選出は地区によりまちまち、これでいいのか
15	南部	・任期については2年から8年とまちまちで決まりが無く、組合持ちまわりで役員決めはもめる
16	南部	・団員の引継ぎもうまくいっている地区とそうでない地区が有り持ち回りも難しい
17	竜東	・現状の活動を続けるには団員人数は必要。その中、山本分団では団員数を半数にしたと聞いた。
18	飯田5地区	・赤十字奉仕団について、地域のつながり(PTA、保護者会等)をきっかけに団員確保に繋げていきたい。
19	飯田5地区	・他所から来た人は地域のコミュニティに意外と入りにくいと思う。
20	飯田5地区	・子育ても一段落した頃に、年功序列で赤十字奉仕団をやってもいいのではないかとって参加すると、役員決めの時にはなり手がいないから手も上げないという状態になっている。
21	飯田5地区	・奉仕団への入団希望者はほぼなく、町内選出で行っている。任期2年ならばと受けてくれる。若い人は子育てなどで忙しく、高齢者でも70代まで働く人が多い。頼みやすい人が続けることになっている。
22	飯田5地区	・若い人が入ってもらえるような負担感のない活動にしていけるべきでは
23	飯田5地区	・子育て世代には奉仕団活動は困難

2 まちづくり委員会との連携に関して 20/125

1	遠山	・まちづくり委員会と懇談を行えば広報で報告されるので、ぜひ消防団や赤十字奉仕団の現状を知ってもらうための懇談の場を設けたほうが良い。
2	遠山	・地域住民の日赤の認識向上のためにも、まちづくり委員会との協働を望む。昨年からまちづくり委員会のオブザーバーという立場をいただいたが、意見を交わす場はない。
3	遠山	・まちづくりの中で一つの役割を持つ位置づけにしてほしい
4	遠山	・自主防災会の中に日赤も入れて委員として責任と役割を持つようにしてほしい
5	鼎	・地区の中での役割がどうなっているのか、自主防の中での役割が曖昧
6	北部	・防災倉庫の管理、団員確保など、日赤とまちづくりとの関わりを密にしていける必要がある。
7	南部	・まちづくり委員会と一緒に分団の実情を共有し合い、その対策を早急に実行に移す必要がある。
8	南部	・赤十字奉仕団は、まちづくり委員会や区会といった地域と懇談する機会はなく、単独で活動している。
9	南部	・募金活動を組合未加入者のところも含め団員がまわってお願いしている、団員の負担、まちづくりなどと共同で出来ないか
10	南部	・自主防災会での役割もまだ整理されていないのでは。センター所長・日赤・自主防会長の協議をしたらどうか。
11	南部	・活動費について募金活動が原資であるが、まちづくりからも出ている。日赤の活動費をどの程度の考えが地区には無い。
12	竜東	・以前よりは改善されてきたが、奉仕団とまちづくり委員会あるいは自主防災会との連携をもっと取る必要がある。
13	竜東	・まちづくりの委員の発言で日赤の活動が良くわからないとの感想があった
14	竜東	・災害時のことを考えると日赤の役割は有ると思うが、活動や行事の見直しをすべき→まちづくりと連携して
15	竜東	・負担になっている日赤の社費集めは、まちづくりが地区協力費と一緒に出来るのでは
16	飯田5地区	・まちづくり委員会と連携し、男性参加、炊き出し訓練をしていきたい
17	飯田5地区	・炊き出しなど奉仕団の活動が理解されていないのでは ⇒ まちづくりそのものが奉仕団を理解していないのは課題
18	飯田5地区	・団の活動費は自治会からの補助や活動資金の募金活動 ⇒ 奉仕団の事業費という考え方が有っても良いのでは
19	飯田5地区	・日赤奉仕団の活動・組織を市やまちづくりの中に位置づける必要があるのでは
20	飯田5地区	・日赤奉仕団へのフォローをもう少し手厚くしてもらえるように動いていただきたいと思います。

3 分団への理解を広げていくために 18/125

1	遠山	・日赤の今までのやり方を見直してほしい。(どうすれば若い人が入ってもらえるか、活動する人は70歳以上)
2	遠山	・地域の中に日赤の役割を知って欲しい。(日赤の活動の重要性を理解して欲しい)
3	松尾	・日赤あるいは分団の広報が重要である。奉仕団のことをほとんどわからないまま入団する。防災に関する講演会、救急法の講習会を地域の中でも活発化させたい。子どもの頃から防災に関する育成が大切。
4	松尾	・奉仕団のやっていることを初めて聞いた。大事なことなのでもっとアナウンスした方がいい。
5	鼎	・赤十字奉仕団の皆さんは色々な行事に協力してくれているが、いつも申し訳なさそうに来てくれるのを見ると気の毒に思えてくる。

6	県	・日赤のイメージが悪い
7	県	・日赤の活動を行政も含めPRすることで理解が進むのでは
8	西部	山本小・旭ヶ丘中で救命講習、災害講習を行っている。実地も良いが、ユーチューブを活用してはどうか。動画作成にあたっては、市危機管理部が飯田市全体の災害への備えとして作成してはどうか。
9	西部	・日赤の活動を知ってもらうこと(PR)が必要。小中学校に出向く、広報紙など
10	北部	・近年、災害や大規模な火災がないので、赤十字奉仕団(消防団も含まれる)の必要性を感じられないことが一つの要因かもしれない。
11	北部	・消防団も赤十字奉仕団も、子供のころから慣れ親しむ存在にしていけることが大切ではないか。
12	北部	・小学校で水泳の授業が行われていたときは、赤十字団奉仕団が出かけて救急法の訓練を子どもたちと一緒にやっていた。
13	北部	・小学校で消防団や赤十字奉仕団の活動を見せることによって、身近な存在に感じてもらえるようになりイメージがよくなるのではないかな。
14	北部	・日赤の活動を知らない人が多いので、広報が必要である。
15	北部	・奉仕団の活動を知ってもらう事が求められる
16	北部	・これからのあり方を考えると、日赤の活動を地域に理解してもらう事が必要
17	南部	・自助・共助の在り方を再度見直してみる必要がある。市民の意識の持ち方で消防団や日赤奉仕団を見る目が違ってくると思う。
18	飯田5地区	・奉仕団の活動が地域つながりのきっかけになると良い。子どもたちに奉仕団の活動に興味を持ってもらうため遊び感覚で、夏休み寺子屋で小学生と炊き出し訓練をしたが、好評で親にも伝わると思う。

4 本団への要望や提案 33/125

1	遠山	・(南信濃分団)分団長・副分団長を救急救護員がなるように本団から指示が来るが、本団の考え方を改めてほしい。
2	遠山	・任期について2年とするなど、2年間はしっかりやって交代できる仕組みにしてほしい(役員になると長期になる)
3	県	・赤十字奉仕団の活動は本当に負担感しかなかった、前任者からの引き継ぎやフォローは一切なくゼロからのスタート。なぜそれをずっと繰り返すのか、引き継ぎやフォローをする仕組みを作してほしい。
4	県	・赤十字奉仕団は女性が多く子育て世代も多い、子どもを連れての会合の参加など工夫をしてほしい。
5	南部	・本部のやり方が昔のままなので見直しが必要だが、新しいことに挑戦すると古い方に叩かれる、本部が強い
6	南部	・本部のやり方が昔のまま、見直しが必要
7	南部	・炊き出しの方法や必要性も考えたほうが良いのでは、米の種類が決められていたこと、水加減など決まりがある
8	南部	・軍隊みたいと思う時がある、今どきの人には受け入れられない
9	南部	・救急訓練も大変で指示が厳しい、形式なところが目立つ、点呼訓練も大変だが必要があるのか
10	南部	・本部とに調整が負担と思う。活動のあり方を見直すべき
11	飯田5地区	・飯田5地区だけ赤十字奉仕団の事務局が自治振興センター長になっていない。改善できないか。
12	県	・炊き出しのマニュアルが厳しすぎる ⇒ 改善すべき

13	西部	・「日赤の活動をしない」という活動をしてはどうか。災害時の初動活動はどれほどできるか。炊き出し、救急・救命、施設清掃、募金活動はボランティアなどで代替できないかなど、日赤の必要性の検証。
14	西部	・地域の理解を進めるためには、日赤の役割が何かを見直す必要があるのでは
15	西部	・伊賀良地区では、自主防災会が地区単位の活動になっているので、全体の活動にして参加するほうが良いのでは
16	北部	・日赤が変わっていくためには、役員の皆さんは奉仕団不要論も有ることを知ること必要では
17	北部	・役員の思いも大切と思うが、年齢の制限を設けることもこれからは必要なのではないか
18	北部	・活動の中身も一定のレベルで共有するものと、高みを目指す方など個々の団員が求める所により整理することは
19	南部	・日赤のバックキング(炊き出し)はキャンプでも活かせることを伝えれば若者にも関心を持ってもらえるのではないかと。子どもたちと一緒に炊き出しをすることもいいと思う。
20	南部	・救急法の大会が無くなって活動は減ってきたがまだ多いと感じる
21	南部	・消防署と日赤で時代に合った訓練をすべきでは。実践に即した訓練をしたい
22	南部	・団員になるのが嫌で組合を抜ける方もいる。参加し易く成る様な組織に変わるためこれからの在り方を考えるべき
23	南部	・団員不足には日赤のイメージが悪いことが挙げられる。形式的な動作や指示が厳しい、募金活動や炊き出しの訓練
24	竜東	・奉仕団は女性の組織と思っている人が多いが、男性団員も必要である。
25	竜東	・災害時に何ができるか、そのときに必要なことをすることが重要で団員数や訓練等をこの基準で検討していくことだと思う。
26	竜東	・日赤の炊き出しは災害発生後1週間後となっているので炊き出し訓練は必要か
27	竜東	・奉仕団訓練活動について時代に合った考え方や行動見直しをすべき、奉仕活動が強制になってないか考えるべき
28	飯田5地区	・今年の赤十字奉仕団大会に出席する団員は地域ポイント300ポイントがもらえる。もらえないよりはもらえた方がよい
29	飯田5地区	・赤十字奉仕団について、地域連携が必要で今後は5地区がより連携し(消防団で言う方面隊のような)組織再編を含めて、協力し支え合っていかなければならない
30	飯田5地区	・赤十字奉仕団の炊き出し訓練について、避難所となっている学校(発言は追手町小学校)で訓練ができるようにならないか。実際の状況を想定した訓練でないと意味がないと何度も言っているが許可がおりない。
31	飯田5地区	・消防団や赤十字奉仕団は有事の際に集まることができることを前提に組み立てられているが、実際には家が押しつぶされているかもしれないので、そういう時でも行動が取れる訓練をしておかなければいけないのではないかと。
32	飯田5地区	・15地区には自治振興センターがあり日赤の担当事務職員がいるが5地区にはそれが無い⇒その必要性を検討
33	飯田5地区	・消防団から消火活動で炊き出しを受けたことはこれまでのところなかった⇒炊き出しについて要件等では

5 複数の項目に関連すること 31/125

1	北部	・組合加入率がもっと低い地域、都市ではどのように、日赤、まちづくりを運営しているのか
2	南部	・男性も奉仕団員になれるのか。
3	竜東	・奉仕団員は高齢化しているが年齢制限はあるのか。

4	遠山	・団員に楽しんでもらう。楽しければ次も参加しようという気持ちになってもらえる。厳格に行われていた本団指導もこのところ柔軟となり、分団としても活動は無理しないようにと団員に願っている。
5	遠山	ここでずっと住みたいと言っていた独居の方々が「悲しいよ…」と言いつつ、市内のケアハウスや施設に入居した。地域の中で見られない歯がゆさを感じる。団員として地域の中に入る活動が、と思います。
6	松尾	・松尾分団は平均年齢50歳代と他分団と比べ若い、高齢の方とも奉仕団活動を通じ、コミュニケーションを取り、楽しい時間が過ごせる。活動に参加することで自分を守り、家族を守ることができる。
7	鼎	・同年代が何人かいればいいが、各班に4人から5人しか団員がいない状況だと、どうしても年齢が大きく開いてしまう。
8	鼎	・正副班長になると負担が大きい、団員の事業参加率が低いことにより役員に負担がかかる
9	鼎	・分団長は仕事と両立は無理 ・1年で辞めにくい雰囲気がある ・やめられるか不安
10	鼎	・地区によって活動や構成に開きがある、ばらばら
11	西部	・伊賀良では20年くらい務めた分団長が辞めたことを契機に、日赤を一昨年解散しまちづくり委員会が新たに立ち上げた
12	西部	・人数が多い地区は出てこない人もいたり、一方少ない地区ではまちづくりの人の手を借りたりなどしている
13	南部	・赤十字奉仕団の活動は、団体(分団)の実績づくりのために活動している印象である。
14	南部	・赤十字奉仕団の活動目的を納得して賛同できれば、やりがいをもって活動に取り組むことができる。
15	竜東	・団員不足が課題だが下久堅は団員を減らすことを検討中
16	竜東	・救急員に関しては責任が有るためなおさら人数が減っている、特に分団長になると日赤の他に宛職が有り負担大
17	飯田5地区	・(消防団に入団している年齢は子育て時期と重なることから)奥さんからすれば一番子育てに参加してほしい時に、夜や休みの日も操法訓練や大会でいないので、負担が大きく奥さんは嫌がる。
18	飯田5地区	・若いうちからコミュニティに参加しろと言っても、私たち50代以上の感覚で「これは絶対に入らなくてはいけない」って言ったら絶対嫌がる(拒絶がすごい)と思う。これは、赤十字奉仕団も同じことがいえる。
19	飯田5地区	・(橋北分団)赤十字奉仕団には順番が回ってきて団員となり、役員は出てきた人の中から決めた。
20	飯田5地区	・(丸山分団)たまたま現在の正副分団長はPTAと一緒にやっていたので、メンバーがいいからなのかわからないが、なり手が大変という感じは持っていない。
21	飯田5地区	・赤十字奉仕団の皆さんを見ると、年齢的にかなり大変になってきている方がいるので、(順番で回している)町内ではきちんと考えているのかなと思う。
22	飯田5地区	・(丸山分団)分団長の決め方は「くじ引き」でやっている。
23	飯田5地区	・固定観念があり、町内によってはPTAが必ず1人は入ると言うところもある。
24	飯田5地区	・PTAの役員をやっている人と言っても子供が小さいので、どうしてもPTAの参加が優先される。
25	飯田5地区	・母親の世代は専業主婦で赤十字奉仕団の活動に参加していたが、私たちの年代は働きながら赤十字奉仕団の活動に参加するようになった。
26	飯田5地区	・赤十字奉仕団にはジェネレーションギャップがあって、若いうちは奥さんに不満が溜まり、年齢が上がっていくと今度は旦那に不満が溜まる、そこがうまくいけばいいが、なかなかこの溝は埋められない。
27	飯田5地区	・(橋北分団)(分団の登録人員と活動人員は)登録は30人いるが訓練は20人程度、災害時は1桁集まるかどうか。

28	飯田5地区	・(丸山分団)(分団の登録人員と活動人員は)登録は40人弱いるが、連絡方法がまちまち(E-mail,Line、電話等)で有事の際にすぐ連絡付けられて動ける人は10人位。
29	飯田5地区	・日赤奉仕団救命講習は講習終了取得要件が厳しいため日程調整が難しい。消防署で受けた資格では通用しない。
30	南部	・住民同士の関係づくりが奉仕団、消防団の入団、まちづくりの組合加入にも重要である。今までは加入することを求めてきたが、これからは加入していない人とも関係を絶やさないことが重要である。
31	飯田5地区	・住民からすれば、消防団と赤十字奉仕団は必要な組織である。

寄せられた125件の意見を分類すると以下のようになりました。

①団員の勧誘・選出について	23/125
②まちづくり委員会との連携に関して	20/125
③分団への理解を広げていくために	18/125
④本団への要望や提案	33/125
⑤複数の項目に関連すること	31/125